

2018年3月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター

(3224)



2018年3月26日

第1弾、富山県入善町の清浄な海洋深層水を
使用した**牡蠣の浄化方法**で

特許取得。

(特許第6240037号)

牡蠣の
新基準が
ここから
はじまる。

2018年、NEW BRAND DEBUT!



第2弾、沖縄県久米島の清浄な海洋深層水を
使用した**牡蠣の陸上養殖方法**で

特許取得。

(特許第6267810号)

世界初、ウイルスフリーの牡蠣にもうすぐ会える。

2018年3月期 第3四半期 ご説明のポイント

- 1、2018年3月期 第3四半期（累計）決算について
- 2、2018年2月の「資本業務提携及び第三者割当増資」について
- 3、現状の取り組みについて
- 4、今後の展望について

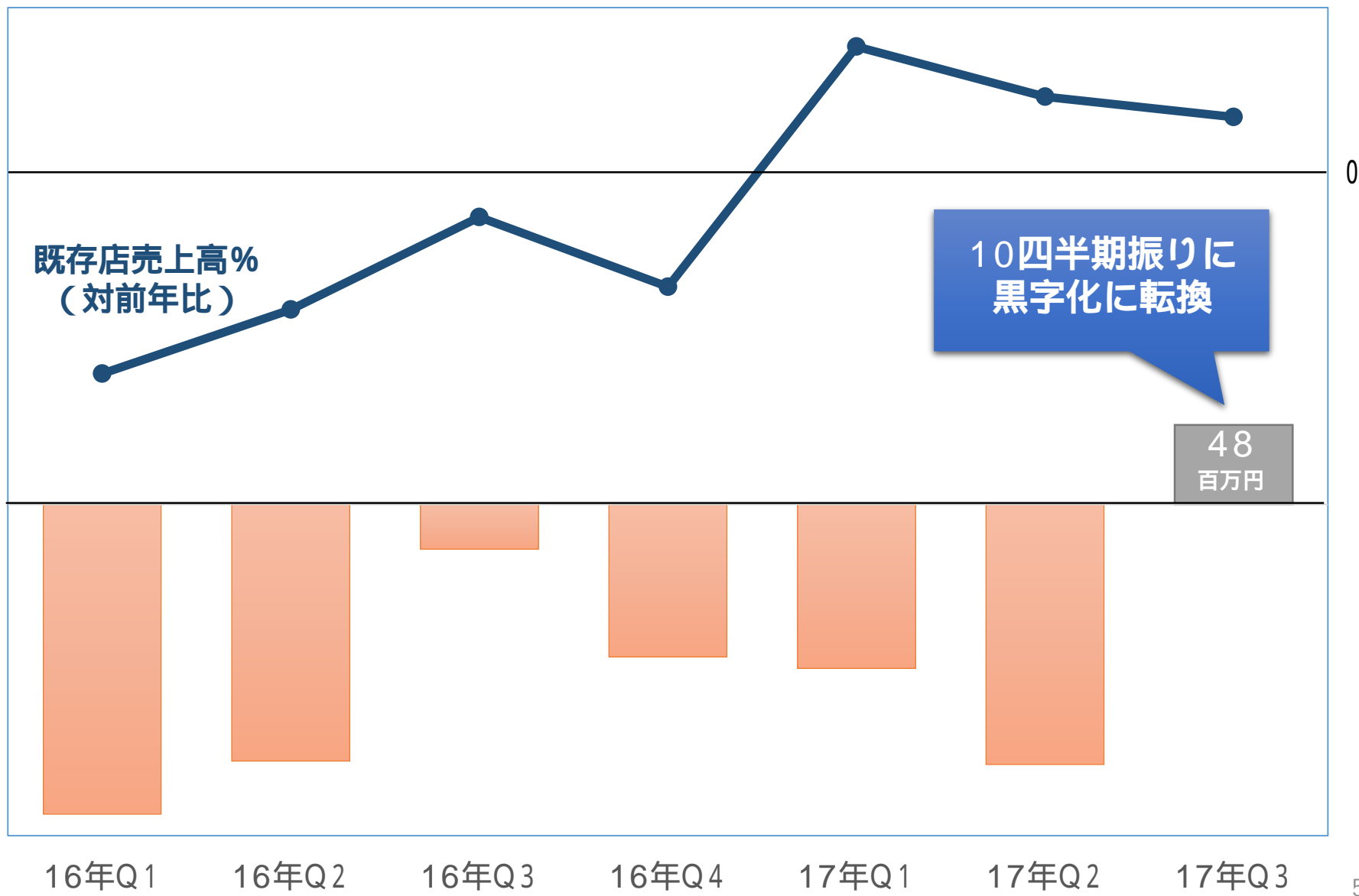
1-1、2018年3月期 第3四半期（累計）の概要

既存店売上の伸びと、コスト改善が進み、営業損失が縮小

	2017年3月期 第3四半期 累計		2018年3月期 第3四半期 累計		増減額	増減比
	実績	構成比	実績	構成比		
(単位：百万円)						
売上高	2,941	100%	2,918	100%	22	0.8%
売上原価	970	33.0%	962	33.0%	7	0.8%
売上総利益	1,970	67.0%	1,956	67.0%	14	0.7%
販管費	2,340	79.6%	2,065	70.8%	275	11.8%
営業利益（損失）	369	12.6%	109	3.7%	+260	-
経常利益（損失）	380	13.0%	116	4.0%	+264	-
当期純利益（損失）	606	20.6%	81	2.8%	+525	-

当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

1-2、2018年3月期第3四半期（期間）に営業黒字を確保



1-3、2018年3月期 第3四半期 セグメント別売上高比較

店舗事業は不採算店舗の閉店があり店舗数が減少し店舗事業全体では減少したものの、既存店が好調に回復。卸売事業等は、海外輸出やイベントが寄与し微増。

(単位：百万円)	増減額	備考
直営店舗事業	23	
新規出店	+112	2018年3月期出店 1店舗
閉店	227	
既存店	+92	+3.3%
卸売事業等(*)	+1	
合計	22	

() 種苗売上や海外輸出の店舗事業以外の売上を含む

【既存店の売上、客数、客単価の増減率】

既存店	対前年比
売上	103.3%
客数	105.0%
客単価	98.4%

2-1、資本業務提携及び第三者割当増資について

1 . 資本業務提携

- ・ TRYFUNDS INVESTMENT投資事業有限責任組合と資本提携 **第三者割当増資**
- ・ (株)TRYFUNDS INVESTMENTと業務提携 **ノウハウ活かし、業績改善**

2 . 第三者割当増資

- ・ 割当先 ... TRYFUNDS INVESTMENT投資事業有限責任組合
- ・ 発行価格 ... 693円
- ・ 募集株式 ... 1,154,500株
- ・ 払込総額 ... 800,068,500円【発行諸費用を差し引いた概算手取額：795,068,500円】
- ・ 払込期日 ... 2018年2月26日

2-2、増資資金の使途

(1) 借入金返済【350百万円】

(株) Tryfunds及び(株) ケイ・メディックスへ2018年2月末に返済

(2) 構造改革費用【295百万円】

経営体制の抜本的改革

経営支援人材の採用

店舗リブランディングの実施

(3) 成長投資【41百万円】

新業態店舗の出店

マーケティングの強化

(4) 陸上養殖の実用化に向けた研究開発投資【50百万円】

(5) 運転資金の確保【59百万円】

3、現状の取り組み

< 収益性向上に向けた、具体的な取り組みについて >

(1) 組織体制・経営体制の変更

(2) 特許技術を取得した、オイスターの安全を守る取り組み

(3) 店舗事業に係るリブランディング

(4) 加工・卸事業の販売チャネル拡大

3- (1)、組織体制・経営体制の変更について

< 具体的な取り組みについて >

(1) 経営陣の強化

ガバナンスの強化

グループマネジメントの強化

経営資源の効率的活用

(2) 各事業の連携強化と効率化を推進する、組織体制に変更

安全を守る取り組みを強化

人財育成

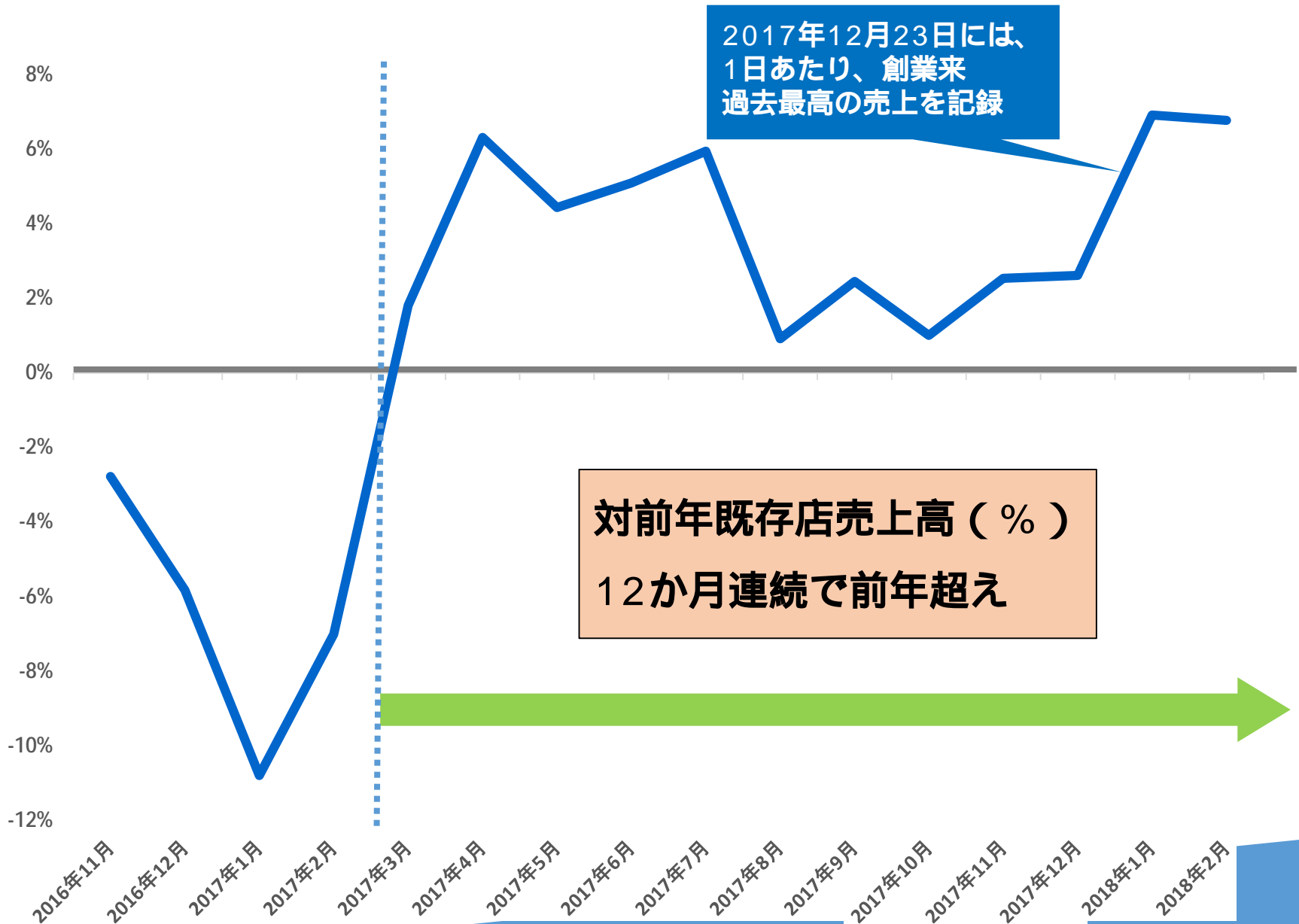
3- (2)、特許技術を取得した、オイスターの安全を守る取り組み

< 具体的な取り組みについて >

最高水準の安全な牡蠣を提供する管理システムを日々改善し、全スタッフが十分な知識と高い意識を持って行動できるように取り組んでいきます。



3-(3)-1、店舗事業の着実な業績回復



3- (3) -2、店舗事業に係るリブランディング

< 具体的な取り組みについて >

(1) 現在14ある業態を最適化して、リブランディング

(2) 第一弾として、3/20に、

川崎ラゾーナの「GUMBO & OYSTER BAR」を

「Oyster Plates」(オイスタープレート)としてリブランディング。



3-（4）、加工・卸事業の販売チャネル拡大

< 主な施策 >

（1）2017年に稼働した、岩手・大槌の加工工場の稼働率を順次UP

オリジナルの高品質な牡蠣加工品（牡蠣フライなど）を、グループ内店舗から流通させる。

加工品の専門家を採用し、マーケットアウト発想の魅力的な商品開発で、牡蠣加工品でもブランディングを図る。

（2）卸事業の販売チャネルの拡大

加工・卸の営業機能を統合させ、成長促進させる

海外（アジア）輸出事業をさらに拡大

国内のホテルや高級レストラン、高級スーパーなどのプレミアム市場をさらに拡大

4-1、先端技術の追求で特許取得

当社は、**牡蠣の蓄養方法**、**カキの陸上養殖方法**という2つの特許を取得しました。

1．牡蠣の蓄養方法（特許第6240037号：2017年11月10日登録）

【概要】

- ・海洋深層水を用いて、牡蠣を水槽の中でかけ流して蓄養（浄化）
- ・細菌やウィルスの感染リスクを減少させ、栄養価が高くかつ鮮度を保持した牡蠣を提供することを可能とする浄化方法

【意義】

- ・従来の方法（表層水の紫外線殺菌海水を用いる方法等）を上回る浄化効果
 - ・海洋深層水の富栄養性から、牡蠣の鮮度を保持しつつ栄養価の高い牡蠣を提供可能
- 浄化方法に関するブランディング強化し、明確な差別化**

2．カキの陸上養殖方法（特許第6267810号：2018年1月5日登録）

【概要】

- ・海洋深層水を用いた水槽の中で、幼貝から成貝まで育成し、ウィルスフリーの牡蠣を養殖
- ・海洋深層水中で培養した微細藻類をエサとする

【意義】

- ・水槽での養殖であり、水温調整によって成育及び産卵を促すため、自然環境下に比べて短期間での出荷可能 将来的にはコスト面での競争力
 - ・世界初ウィルスフリー牡蠣の陸上養殖が実用化できると、大規模な販路開拓が可能
- 高い参入障壁のもと、競争優位な事業展開の可能性**

カキの長期保存方法に関する「**カキの保存方法(特願2014-229100)**」も出願審査中

4-2、中期的な展望について

2つの牡蠣を安全にする「海洋深層水での陸上養殖」と「海洋深層水での浄化」の特許技術を活用し、革新的で先進的な牡蠣の六次産業化を構築し、お客さまが常に新鮮な感動を得られるような商品サービスをこれからもグループ社員スタッフ一同、心を合わせて提供していきます。



お問い合わせ先

【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ゼネラル・オイスター

経営戦略本部 IR担当

TEL:03-6667-6606

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。